平成４年６月28日
福島相双復興推進機構　第５回畜産セミナー

# 耕作放棄地を草地活用した肉用牛繁殖経営からブランドづくりまで

瀬尾ファーム
代表　瀬尾　亮

## 瀬尾ファームの場所

（経営者の瀬尾夫妻）

## 1. 瀬尾ファームの経営概要（令和4年6月6日現在）

**立　　地：**栃木県南東部の那珂川流域の中山間地域
**飼養頭数：**繁殖和牛４０頭（うち２４頭は放牧地）
子牛２５頭（うち１２頭は放牧地）
肥育牛２２頭
**経営草地：**放牧地８.１ｈａ（うち借地７.８3ha）
採草地０.５ｈａ（借地）
**施　　設：**繋ぎ牛舎、育成牛舎、倉庫、堆肥置き場等
**機　　械：**トラクタ１台、軽トラ（ダンプ）、バックホー、フォークリフト等
**労　　力：**夫婦２人

# 2. 肉用牛繁殖経営への就農、放牧導入の経緯

2002年：海上自衛隊を早期退職し、妻の実家へ

山林７６ｈａ、水田１ha、畑２０ａを所有しているが、山林が多いため、シイタケ栽培が主であった

- 原木シイタケの露地栽培は先がない
- 茂木町は山に囲まれている典型的な中山間地域で、耕作地単位が狭く営農には大変な努力が必要であり、耕作放棄地も多い

和牛繁殖農家をめざす

まず、子牛１頭を飼い、その後、自宅前の原野、畑、山を造成し、牛舎とパドックを作り、繁殖和牛１５頭を飼養

イノシシ対策のための電気牧柵を延長し、自宅前の３０ａの休耕田を放牧地として利用

**役場の理解･協力を得て、遊休地を利用した放牧の取り組みを本格的に開始**

2006年から耕作放棄地活用により放牧地を徐々に拡大

# 3. 放牧地区の概要

瀬尾ファームでは現在、３地区(大峰、猪田、下河原)の耕作放棄地で放牧を行っている。

そのうち下河原地区には、耕作放棄されていた圃場(元タバコ畑)を活用した10牧区(総面積6.45ha)の放牧地がある。この地区のすぐ横には栃木県の代表的な河川の一つである「那珂川」が流れている。

# 放牧地区の概要

## ①大峰（おおみね）地区

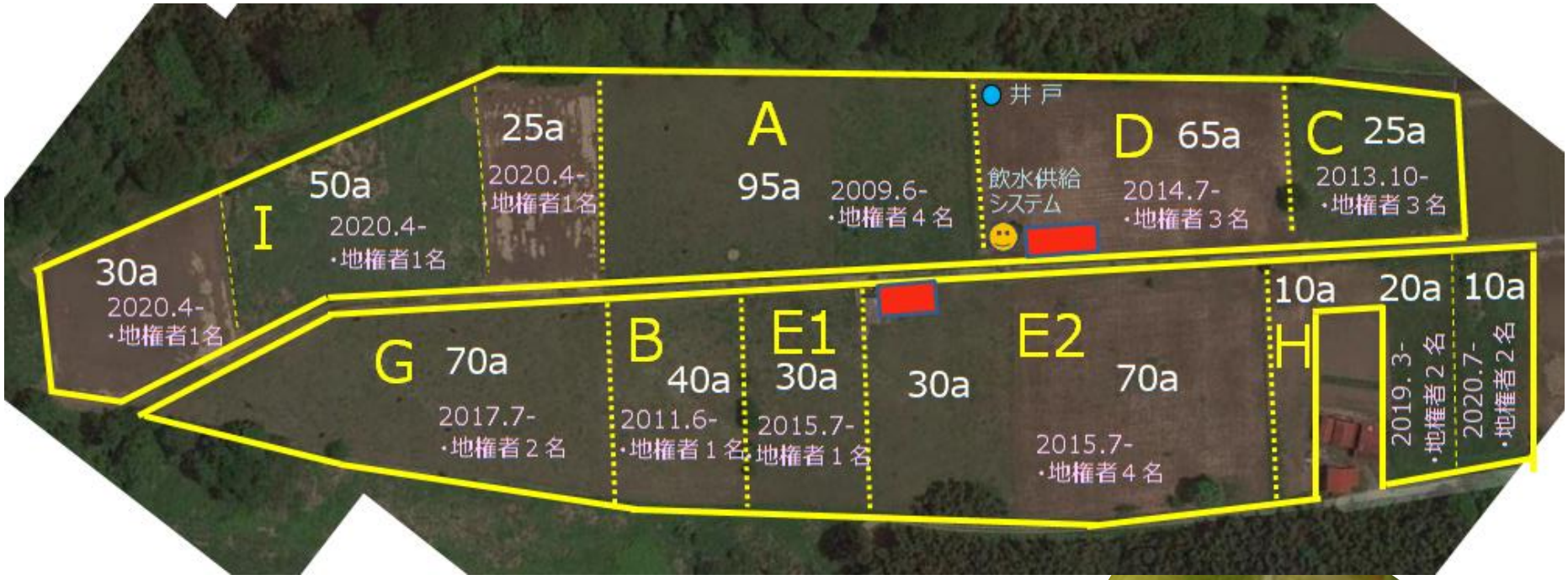
面積７５a（地権者４名）
２００７年７月より放牧利用

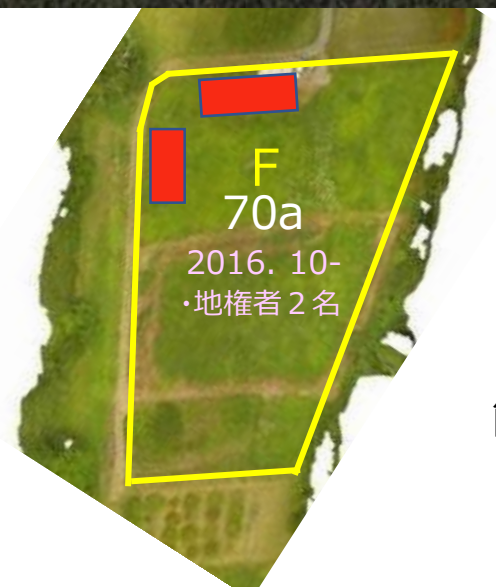
## ②猪田（ししだ）地区

面積６０a（地権者２名）
２００９年１０月より３５a放牧利用、
２０１５年より２５a放牧利用

# 放牧地区の概要

## ③下河原（しもがわら）地区






簡易牛舎

# 4. 2019年10月12～13日台風19号による被災状況

・下河原地区全体が一時浸水し、放牧牛23頭が流された。後に17頭救助される。
・草地約5haのうち、約2/3が土砂に埋まる。
・施設の多くが全壊する

親子放牧施設

## 放牧の再開

# 5. 周年親子放牧

## 放牧場に簡易牛舎と自動飲水供給システム

・親牛、子牛、育成牛を放牧する。
・放牧地で種付け、出産と育成を行う。
・春夏だけでなく秋冬も一年を通じて放牧する。

## 周年親子放牧のメリット

・糞だし、餌やりが楽、牛の移動も少ない。
・舎飼いにくらべ餌代が４割削減できる。
・本格的な牛舎がいらないので低コストで規模拡大ができる。
・不耕起栽培が可能、化学肥料をほとんど使わない。

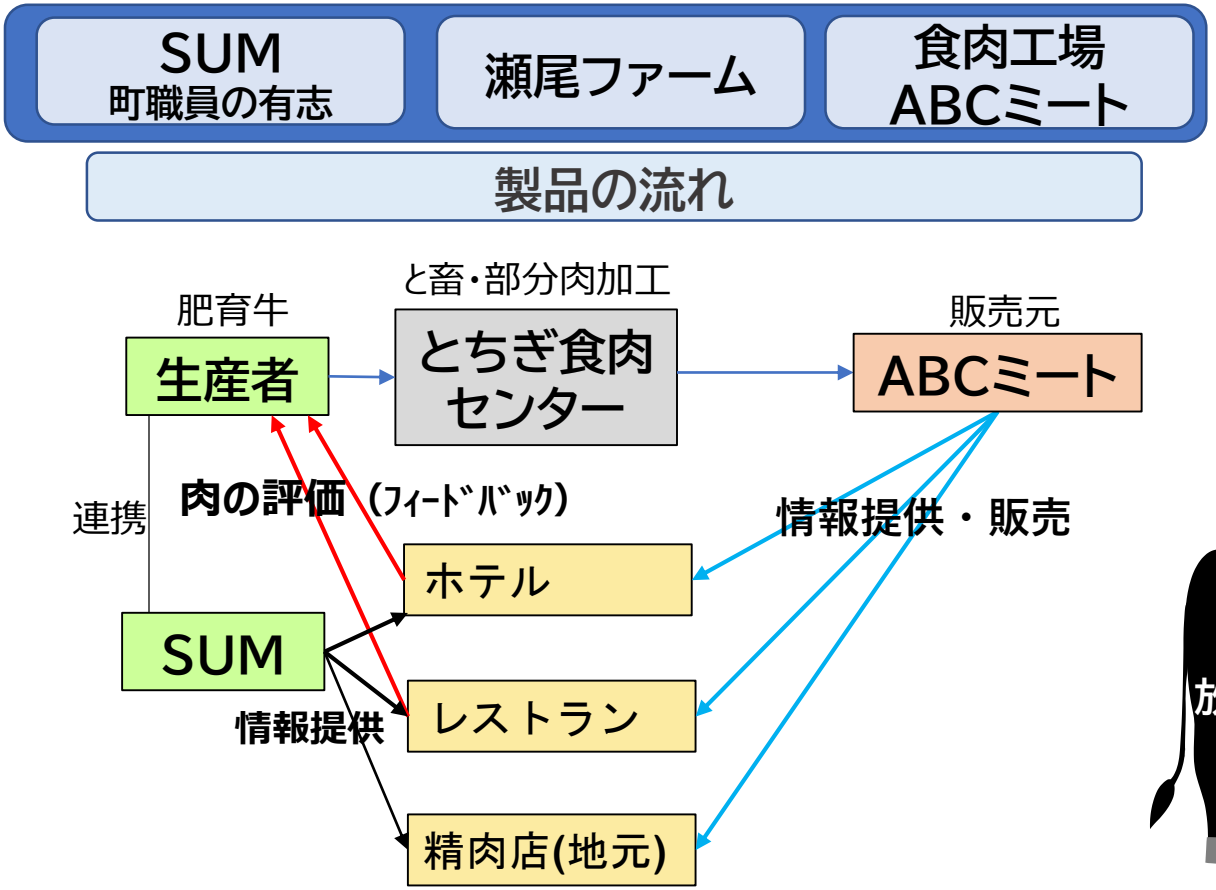
# 6. 一貫経営

・放牧育ちは長期肥育に耐えられる。
・12ヶ月まで放牧し、13ヶ月から肥育ができる。無駄がない。
・子牛が病気しないので順調に発育する。
・美味しい牛肉作りができる(格付けと肉の美味しさは違う)。

親には肥育用の配合飼料をなめさせる程度

# 7. もてぎ放牧黒毛和牛としてブランド化

・令和2年にSUM(Social Up Motegi:町職員の有志で作る地域商社)とCF(Crowd Funding)を活用し、「もてぎ放牧黒毛和牛」としてブランド化。
・オトワレストランで試食会(ホテル、レストランのシェフ)。
・極めて高い評価をいただく。
・もてぎ放牧黒毛和牛としてレストラン、ホテル、精肉店(茂木町内)に流通。
・地域経済や地域福祉等に貢献。

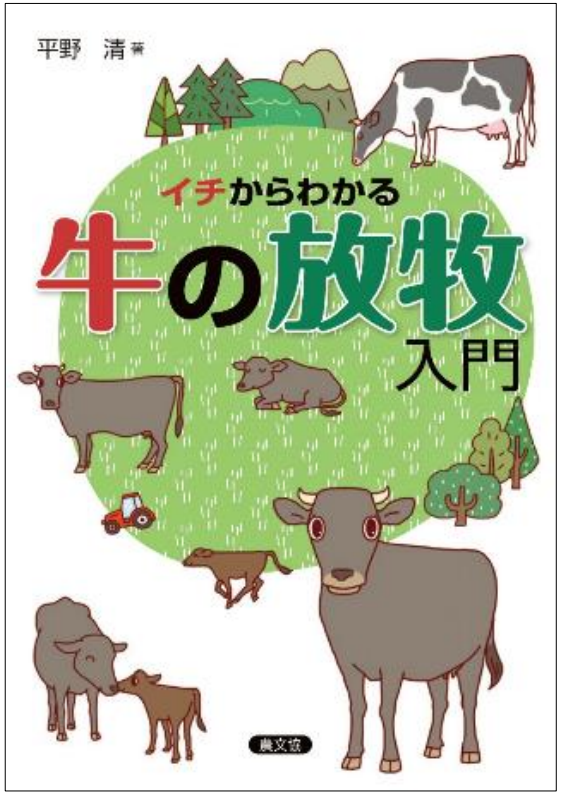


# 8. 瀬尾ファームでの研究成果などを基に公表された刊行物など

## 周年親子放牧導入マニュアル（農研機構）

2021年3月31日発行
**【概要】**肉用子牛の生産基盤を強化しつつ耕作放棄地を解消し、担い手を創出する新たな手段として、周年親子放牧に着目し、その導入に当たってのマニュアルを作成しました。新規参入者を含めたより多くの人に関心を持っていただけるよう、以下のような三部構成としました。
・**「入門編」**周年親子放牧の特徴を子牛の生産面と営農面から解説
・**「基本技術導入編」**計画立案から放牧開始までの流れと、その後の管理について解説
・**「新技術解説編」**周年親子放牧に有効な新技術を解説

## イチからわかる牛の放牧入門




2021年05月発売
著者：平野　清
出版社：農山漁村文化協会
価格　2,400円

牛の放牧の基本の知識と技術を、写真や図を豊富に初心者にもわかりやすく解説。耕作放棄地で失敗なく放牧する方法から、地域や地形に合った牧草の導入、晩秋や冬も放牧するコツまで。さまざまな工夫で放牧期間を長くしていくと、より体がラクで収益の高い経営を目指せる。放牧の専門家が長年の指導経験を余すことなく公開する実践的内容になっています。

インターネットに接続し、以下のウェブサイトにアクセスしてください。全てのマニュアルなどが無料で入手できます。
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/140413.html